

学校再開後のいじめ予防対応の指針

1. これまでの情報の確認・共有

- ・ 多くの場合、クラス替えを経ていることと思います。先入観を持ちすぎることは避けなければいけません。適宜、前年度の様子等について情報を収集しておきましょう。

2. 再開後の対応

- ・ 再開後の早い段階（できれば初日の最初の学活等）で、「咳をしたり、くしゃみをしたり、学校を休んだりしている人に対して『コロナだ』『コロナ野郎が来た』などとからかうことはいじめです。絶対にやめましょう」と周知しましょう。
- ・ からかって楽しむのではなく、適応的な行動をすることで楽しむことができることを共有しましょう。特に気になる児童生徒には、その児童生徒ができそうなちょっとした手伝いや役割を担わせ、できたときにすかさずほめる（感謝する、称賛する、驚くなど）ことで満足感や達成感が得られるような対応をしましょう。
- ・ ストレスの発散方法について話し合うことなども有効です。緊急事態宣言中の過ごし方などを発表しあうことで、他の児童生徒のストレス発散方法を知るような機会にしても良いでしょう。中学生以上の場合には、ストレスの発散方法には気持ちに焦点を当てる方法（好きなことをする、お風呂に入ってリラックスするなど）と、ストレスの素に焦点を当てる方法（調べて解決策を探る、計画を立てて実行するなど）の2つのタイプがあることを知る機会とすることも重要です。
- ・ みんなで軽い体操（ストレッチ）や深呼吸をすることも有効です。

3. いじめの兆候への対応

- ・ いじめやからかいの様子が認められたら、いじている児童生徒、いじめを受けている児童生徒の相互の話を聞きましょう。早期に、学年主任やスクールカウンセラーなども含めた対応チームを作って情報と方針を共有しながら進めることも重要です。また、周囲の児童生徒も、いじめの様子を見聞きすることでストレスを抱えている可能性があることも考慮し、適宜以下の「4」のような対策につなげましょう。
- ・ いじめを受けている児童生徒に対しては、すぐにできる対応（その場を離れる、先生のところに逃げるなど）と、長期的な対応（心理的支援、いじめやからかいに対する自分での対応方法の獲得）とに分けて支援方針を立てましょう。
- ・ いじている児童生徒自身も何かしらの問題を抱えている可能性もあります。特に、家庭内での問題がある場合には、適宜、学外機関との協力も選択肢に入れて、対応に当たしましょう。

4. 長期的な予防的支援・対応

- ・ 学級、学年、学校単位で、長期的な予防的支援のための方針について検討しましょう。具体的には、対人関係のトラブルを解決する方法を習得することに重きを置くようなソーシャルスキルトレーニング（SST）や、対人関係を中心としたストレスに直面した際に、ダメージを受けすぎないようにするための「考え方」に気づくような支援（認知再構成法などと呼ばれています）などがあります。必ずしも、いじめの問題に対してだけでなく、社会で生きていく上で、すべての児童生徒に持ってほしい知識や技能になります。それらを習得する機会を設定していただくことも重要でしょう。

参考：山本・大谷・小関（著） いじめ問題解決ハンドブック（2018） 金子書房。対応方法などについてご不明な点がございましたら桜美林大学小関研究室（skoseki@obirin.ac.jp）までご連絡ください。